

単元名 What would you like ?

氏名： 磯谷 麻江 学校名： 帯広市立帯広小学校
 担当教科： 全教科 実践教科： 外国語活動
 時間数： 4時間 対象学年： 5年生 人数： 16人

学習領域

	1	2	3	4	関連するSDG s
A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生		
B グローバル社会	相互依存	情報化			
C 地球的課題	人 権	環 境	平 和	開 発	
D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加		

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標（評価の観点を意識して設定）：

- ・マレーシアの料理に興味をもち、ほしいものを尋ねたり言ったりする際、丁寧な表現があることに気付く。
- ・ほしいものについて積極的に丁寧な表現で尋ねたり答えたりしようとする。
- ・ほしいものについての丁寧な表現の仕方や尋ね方に慣れ親しむ。
- ・マレーシアの生活の様子や食文化に触れることで、世界には国によって独特の文化や習慣があり、日本と同じものもあれば違うものもあることに気付く。

【2】 単元の評価 規準例	(ア) コミュニケーションへの関心・意欲・態度	マレーシアの学校生活や料理などに興味をもち、進んでほしいものを尋ねたり言ったりすることができる。
	(イ) 外国語への慣れ親しみ	日本で使われている外来語の発音が違うことやほしいものについて丁寧に尋ねたり答えたりすることに慣れ親しむことができる。
	(ウ) 言語や文化に対する気づき	日本とマレーシアの学校生活や食生活を紹介する活動を通じて多様な文化があることに気付くことができる。

【3】 単元設定の理由	<p>本単元は、児童にとって身近な料理を題材に、丁寧な表現で自分の欲しいものを相手に尋ねたり答えたりすることを通し、コミュニケーションを円滑にすることを目標としている。世界にはいろいろな食べ物があり、日本で主に食べられている食べ物とマレーシアで主に食べられている食べ物は、同じものもあれば違うものもあることに気付かせたい。身近な食べ物からマレーシアを知ることで、世界に触れ、異文化を考え、世界と自分をつなぐ楽しさを子どもたちに伝えていきたい。</p>
✓ 児童/生徒観 ✓ 教材観 ✓ 指導観	<p>本学級には、オーストラリアに住んでいた児童がいたり、海外旅行に行く家庭もあつたりし、外国に興味のある児童が多い。ALTとの授業でも、楽しそうに声を出し、活動に参加している様子が見られる。英語でコミュニケーションをとることに抵抗がある児童はいるが、楽しんで活動している。外国語活動に対して苦手意識がある児童でも、興味関心を高めながら学習を進めていけるよう、サポートをしながら活動していきたい。</p> <p>今回は世界の中でもマレーシアの文化を主として単元の内容を構成している。単元の初めには、マレーシアの位置やマレーシアの文化、小学校の様子などについて、クイズを通して気付かせていく。宗教によって食べてはいけないものがあることや、お祈りがあるために朝ごはんの時間が遅くなること、学校生活の違いなど、日本との文化の違い</p>

にも気付かせたい。2時間目からは、英語でフルーツや食べ物を注文するときを使う表現について学んでいく。日本でも果物や食べ物の言い方を外来語として聞いたり言ったりしていることが多いが、英語との音の違いから、日本語と英語の音の違いにも気付かせたい。単元の終わりには、それまでに学んできたことを全て生かせるような活動として「オイソイスごろく」を作成した。ゲームを通してマレーシアでの買い物を疑似体験させ、英語で注文ができる喜びを感じられるようにしたい。

【4】展開計画（全4時間）

※全体の総時間数や「本時」の記入場所は適宜変更して下さい。

※活動・内容の部分は具体的に記載下さい。適宜写真を添付下さい。

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	<p><テーマ> マレーシアを知る。</p> <p><ねらい> ・マレーシアには、日本と同じところや違うところがあることに気づき、マレーシアに興味関心をもつ。</p>	<p>【あいさつ】 ・衣装を着て登場し、マレー語であいさつをする。 ・Selamat pagi. Nama saya ASAE. Saya suka JSB. Sushi. Masakan Malaysia sedap.</p> <p>【マレーシアを知る】 ・マレーシアの場所確認（世界地図・マレーシアの地図） ・写真2枚を見せ、どちらがマレーシアのイメージか聞く。（どちらもマレーシア）</p> <p>【どっちがどっちクイズ】 ○日本とマレーシアどちらのものか考える。 ・写真を用意し、ペアでみながら日本で撮ったもの・マレーシアで撮ったものに分ける。 ①エレベーターのボタン ②トイレ ③おにぎり ④成田山 ⑤食べている様子 ⑥雪景色 ⑦和食のお店のメニュー表 ⑧信号機 ○答え合わせをしながら日本との相違点に気付かせる。同じ中にも違いがあるところ（例. おでんの味）や違う点（例. モスクでお祈り）も日本でも同じようにしていることもある（お正月にお祈り）ことに気付かせる。</p> <p>【小学校の様子クイズ】 ・マレーシアに降り立ち、学校に行くまでの道をイメージできるように写真や映像で追っていく。 ○写真を見せてクイズを出しながら、マレーシアの小学校の1日を知る。 ・学校が始まる時間・終わる時間 ・朝ごはんを中休み（REHAT）に食べる（お弁当の様子） ・授業の様子・後ろのマットの利用法 ・かけ算は12の段まで ・民族舞踊</p> <p>【世界の給食】 ・教科書 P. 40 を行い、世界の給食について知る。</p>	<p>・マレーシアの衣装</p> <p>・写真や動画</p> <p>①～⑧の写真（8セット）</p> <p>ハラルマークの付いた物</p> <p>・追加の写真（画像）を見せながら説明。</p> <p>・写真や動画</p>

		<p>【振り返り】 ○振り返りシートに記入</p>	
2	<p><テーマ> ・マレーシアで売られている果物を知る。</p> <p><ねらい> ・フルーツパフェの材料を買いに行く活動を通して現地の果物に触れ、英語でほしい材料を買うことができる。</p>	<p>【あいさつ】 ○Selamat pagi. (tengahari) (「おはよう」または「こんにちは」だけマレー語を使う) ・How are you? ・ How' s the weather today? ・What' s the date today? ・What day is it today? ・What time is it now?</p> <p>【Let' s go to Sunday Market】 ○サンデーマーケットの果物売り場の様子を見る。 ○日本ではなかなか食べられない果物を紹介する。</p> <p>フルーツパフェの材料を買いに行こう！ 【果物の単語を覚える】 ○フラッシュカードで発音しながら確認する。 ※果物は教科書のだけではなく、サンデーマーケットで売られている果物も交ぜる。</p> <p>【ほしいものを尋ねたり答えたりするフレーズを覚える】 ○What do you want ? ○○, please. で、ドッカンゲームをし、フレーズを覚える。 ○買い物ゲームで、フルーツパフェの材料を買いに行く。(英語で会話) ・クラスの半分をお店、半分を買い物する人に分ける。 ・終わったら逆にする。 ○買ったフルーツをワークシートに貼る。</p> <p>【振り返り】 ○振り返りシートに記入</p>	<p>写真 (画像)</p> <p>・果物の写真</p> <p>・フルーツパフェ用の器のプリント</p>
3	<p><テーマ> マレーシアの食事について知る。</p> <p><ねらい> ・マレーシア独特の食べ物を知り、ゲームを通してマレーシアの食べ物に興味をもつ。 ・レストランで注文するときを使う言葉を覚えることができる。</p>	<p>【あいさつ】 ○Selamat pagi. (tengahari) (「おはよう」または「こんにちは」だけマレー語を使う) ・How are you? ・ How' s the weather today? ・What' s the date today? ・What day is it today? ・What time is it now?</p> <p>○ 【復習】 ・教科書 P. 36 の問題を解く。</p> <p>Let' s go to restaurant ! ○マレーシアの食事風景を見せる。 ・大きなプレートにライスをのせ、その周りにおかずをバイキング形式でのせたり、単品で注文したりする様子を紹介する。 ○日本ではなかなか食べない食べ物を紹介する。</p>	<p>・テレビ (デジタル教科書)</p> <p>・写真や動画</p>

		<p>【食べ物の単語を覚える】 <input type="checkbox"/>フラッシュカードで発音しながら確認する。 <input type="checkbox"/>What' s missing ゲームをする。</p> <p><input type="checkbox"/>What would you like ? I' d like ○○. の Chant をテレビで見る。</p> <p>【振り返り】 <input type="checkbox"/>振り返りシートに記入</p>	<p>・食べ物の写真</p>
4	<p><テーマ> レストランで注文するフレーズを覚える。</p> <p><ねらい> ・マレーシア独特の食べ物を 知り、ゲームを通して食べ物を注文するフレーズを覚えることができる。</p>	<p>【あいさつ】 <input type="checkbox"/>Selamat pagi. (tengahari) (「おはよう」または「こんにちは」だけマレー語を使う) ・How are you? ・ How' s the weather today? ・What' s the date today? ・What day is it today? ・What time is it now?</p> <p>【注文するフレーズを覚える】 <input type="checkbox"/>教師の演技を見て、どんな会話をしているか想像する。 A: What would you like ? B: I' d like ○○ A: Here you are. B: Thank you.</p> <p><input type="checkbox"/>ドッカンゲームで、What would you like ? I' d like ○○.</p> <p><input type="checkbox"/>隣り同士で食べ物を注文し合う。</p> <p><input type="checkbox"/>教科書 P. 37 の問題を解く。</p> <p>【振り返り】 <input type="checkbox"/>振り返りシートに記入</p>	<p>・食べ物カード</p> <p>・食べ物カード</p> <p>・テレビ (デジタル教科書)</p>
5 本時	<p><テーマ> マレーシアの食事・文化体験をする。</p> <p><ねらい> ・ランチメニューを作ることを通して、レストランで注文するフレーズを覚えることができる。 ・体験コーナーでマレーシアの食べ物や遊び、衣装などに触れ、マレーシアの文化を実感することができる。</p>	<p>【あいさつ】 <input type="checkbox"/>Selamat pagi. (tengahari) (「おはよう」または「こんにちは」だけマレー語を使う) ・How are you? ・ How' s the weather today? ・What' s the date today? ・What day is it today? ・What time is it now?</p> <p>ランチメニューを作ろう!</p> <p><input type="checkbox"/>「オイソイ! すごろく」を通して、ランチメニューを作る。</p> <p><input type="checkbox"/>体験活動を通して、マレーシアの料理や文化に触れる。</p> <p>【振り返り】 <input type="checkbox"/>振り返りシートに記入</p>	<p>・すごろくのボード</p> <p>・food , fruit, drink & dessert のメニュー表</p> <p>・money card</p> <p>・体験コーナー (セパタクロウのボール・制服・ドリアンキャンディ・ナシゴレン・なまこ石鹸・太鼓)</p>

【5】本時の展開

※過程の網掛け部分は適宜変更下さい。

※詳細に記載ください。

過程 時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
<p>導入</p> <p>(5分)</p> <p>展開</p> <p>(35分)</p>	<p>【あいさつ】</p> <p>○Selamat tengahari.</p> <p>・How are you? ・ How' s the weather today?</p> <p>・What' s the date today?</p> <p>・What day is it today?</p> <p>・What time is it now?</p> <p>○【復習】</p> <p>・注文するときのフレーズ</p> <p>“What would you like?” “I' d like ~.”</p> <p>を確認する。</p> <p style="text-align: center;">ランチメニューを作ろう!</p> <p>○「オイソイ! すごろく」の説明をする。</p> <p>①food 係, fruit 係, dessert&drink 係, money 係を決め, 決まったらそれぞれのカードを持つ。</p> <p>②一人100RM もらう。</p> <p>③じゃんけんで順番を決める。</p> <p>④普通のすごろくのように進めていく。</p> <p>⑤food, fruit, dessert&drink のマスに止まったら, みんなで“What would you like?” と尋ねる。その後, 自分のほしいものを注文する。“I'd like ○○.” 同じところに止まっても買って, お皿の開いているところに貼る。</p> <p>⑤money のマスに止まったら, 書いてある金額だけもらえる。(money 係が渡す)</p> <p>⑥ワークシートの4つの枠, food 2種類, fruit 1種類, dessert&drink 1種類をためる。グループ全員が枠を埋めたら「オイソイ!」と叫んで, 体験コーナーへ行き, 好きなものを選んで体験をする。</p> <p><体験コーナー></p> <ul style="list-style-type: none"> ・セパタクローのボール→蹴る ・制服→制服とヒジャブをかぶって写真を撮る ・ドリアンキャンディ→食べる ・ナシゴレン→食べる ・なまこ石鹸→においを嗅ぐ ・太鼓→たたく <p>○「オイソイ! すごろく」をする。</p> <p>※残り10分でもワークシートが完成しない場合は, まだ集められていないカードをお互い注文し合う。</p>	<p>○マレーシアに親しみをもたせるために, 「こんにちは」だけマレー語を使う。</p> <p>○わかりやすいように実際にすごろくをしながら説明する。</p> <p>○What would you like ? I' d like ○○. のフレーズを黒板に貼り, 忘れた児童が見て言えるようにする。</p> <p>○積極的に英語を使えるように, 机間指導する。</p>	<p><使用するもの></p> <ul style="list-style-type: none"> ・すごろくのボード ・food, fruit, drink & dessert のメニュー表 ・money card <p><体験コーナー></p> <ul style="list-style-type: none"> ・セパタクローのボール ・制服とヒジャブをかぶって写真を撮る ・ドリアンキャンディ ・ナシゴレン ・なまこ石鹸 ・太鼓 <p>○パソコンでセパタクローの映像を流し, まねできるようにする。</p> <p>○机間指導しながら, 戸惑いが見られる班のサポートをする。</p>

<p>まとめ (5分)</p>	<p>【振り返り】 ○振り返りシートに記入</p>	<p>○書けない児童にアドバイ スをする。</p>	
---------------------	-------------------------------	-------------------------------	--

【授業実践の様子】(本時での写真を添付し、キャプションをつけて下さい)



【みんなで“オイソイ！すごろく”】

“What would you like?” を使って、マレーシア独特の料理やフルーツなどを注文し合いました。すごろくのマスには、Let's try があり、セパタクローやマレーシアの制服を着る体験もして、子どもたちは大興奮でした。

【6】本時の振り返り

子どもたちは、意欲的に活動に取り組んでいた。マレーシア独特の料理やフルーツに興味をもち、自分で食べたい物を選んで注文することができた。積極的に英語で会話をしようとしている子もいれば、なかなか英語が出てこない子もいた。それでも、声かけをすると英語で話すことができた。友達が教えている場面も見られ、よい雰囲気だった。

時間が足りなくて、最後はすごろくをしないで食べ物を集めて完成させ、第二の Let's try の体験をさせた。外国語の授業として行っているのだから、教科書 Let's Listen も本時に入れたが、時間の面から考えると入れない方がよかった。また、すごろくの中に Let's try が入っているのだから、他の班がそれで盛り上がっている声が聞こえてくると、すごろくに集中できなくなり、英語を使うことがおろそかになってしまったことも考えられた。そこで、Let's try はすごろくの中から抜き、買い物が全て終わったチームから順番にできるようにするとよかったと反省した。

【7】単元を通じた児童生徒の反応/変化

※この単元における学習者の変容が読み取れることを意識して下さい。記入者が文章記述を通して「このように変容した」と教師の言葉でその見取りを書くことも可能ですが、できる限り学習者本人の言葉や作品で示していただくことにより、具体性、説得性の高いものになります。

はじめは外国または外国語に対してあまり興味をもっていなかった。また、知っている情報といっても漠然としたもので、怖いイメージをもっていた子もいた。しかし、1時間目に「どっちがどっちクイズ」を行い、マレーシアと日本の同じところと違うところを紹介すると、意欲的に活動に参加し、外国に対して興味をもつようになった。写真や映像を見せると、さらに興味を示した。信号機の青信号の絵が動いているところを見せると「おもしろい！」と声をあげたり、ナシゴレンを手で食べている写真を見せると「本当に手で食べるんだね」とびっくりしたりして、自然な感想が聞こえてきた。写真を見ていくにつれ、トイレのトイレットペーパーの位置が日本より高いところにあることや写真に写っている人がヒジャブをかぶっていることなど、自分たちで日本との違いを見つけるようになっていった。

最後の時間に、今まで紹介したセパタクローやナシゴレン、制服、楽器などの体験コーナーを設けて子どもたちに体験させた。紹介したときから、やってみたい、食べてみたいという気持ちが強かったので、「いろいろな料理やスポーツを体験できてよかった」「楽しかった。行ってみたいくなった」「ドリアンはおいしくなかった。もう食べない」など、体験したからこそ言える感想が聞けた。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲があれば記載下さい】

終始、学習活動に意欲的で、紹介した日本とマレーシアの同じところや違うところ、同じ中にも違いがあるところなどに興味深く耳を傾けていた。子どもの感想からは、「最初、英語は好きではなかったけれど、4時間授業をしてとても英語に興味を持ったし、とても楽しくできた」「最初はハローくらいしかわからなかったけど、どんどん英語がわかるようになってきた」など、英語に対する苦手意識がなくなったという感想をもった子も多かった。また、「次はいつ授業ですか?」「早く次の話が聞きたい」「マレーシアに行きたくなった」と、休み時間に話してくれる子もいて、マレーシアのことをもっと知りたいという気持ちが表れていた。

【途上国・異文化への意識の変容について記載下さい】

(授業前)

「もともと外国と日本はどんな違いがあるのかわからない」と、途上国や異文化に対しては、そもそもよくわからないという意見が多かった。また、「いろんな見たことのないものがあったり、風習が違うのかなと思っていた」「こわい」「のどかで平和なところもあれば、ひどいところもある」など、テレビで見て怖いイメージをもっていたり、のどかな田舎町をイメージしたりするだけの漠然としたものしか捉えられていなかった。

(授業後)

授業では、主にマレーシア独特の料理や果物、学校の生活スタイル、トイレ、町並み、コンビニがあることなど、日本との相違点や同じ中にも違いがあるところなどを紹介してきた。子どもたちは、日本と同じなかにも違いがあること、違うけれど似ているところなどに興味を示していた。

授業後の感想からは「お祈りは日本はお辞儀だけだけれど、マレーシアの人達はひざまずいていた」「日本に似た食べ物もあった(ナシゴレン・ミーゴレン・魚・野菜炒め)」「虫を食べることに驚いた」「トイレはシャワーでおしりの汚れを取ることに驚いた」「外国は日本と違うから、もっと授業を受けていろいろな違いを知りたい」「委員会の制服があるとは思わなかった」など、異文化へ強い興味を示し、自分も食べてみたい、やってみたい、行ってみたいという気持ちを強く感じた。

【8】自己評価

1. 苦勞した点	<p>※学習活動が展開する中での苦勞や、そこで見えてきた問題点を記入して下さい。</p> <p>全4時間の中に、マレーシアのどの部分を入れるか、伝えたいことはたくさんあるが伝えきれなかった。外国語活動として行ったので、どうしても国際理解の観点が薄くなってしまった。カワマンディーやトイレの様子、家の作りなど、発展途上を思わせる様子は、きちんと時間や計画を立てて説明しないと悪いイメージを与えてしまいがちなので今回は省いた。</p> <p>本時では、すごろくを通して外国語の“What would you like?”に慣れ親しむことと、マレーシアの文化を体験できるように設定した。体験させたいことはたくさんあるが、道具がなかったり、笛は口をつけるものなので体験できなかったり、何を体験させるかで悩んだ。食べ物の体験もさせるか悩んだが、前時までの子ども達の反応を見るとぜひ体験させてあげたいという気持ちになり、アレルギーをしっかりと確認した上で実行した。また、すごろくに時間がかかると予想はしていたので、</p>
----------	---

	<p>すぐろくで使う道具を最小限にすること、ルールを簡素化しつつたくさん英語が話せるようにすることも工夫した。</p>
2. 改善点	<p>※実践を再度実施することや、他の学校で追試する場合のことを想定して、改善点を示して下さい。</p> <p>全5時間とるとよい。4時間目を2つに分け、教科書の問題を解く時間と“What would you like?”を覚える時間として1時間使う。もう1時間ですぐろくをし、十分な時間の確保をするとよい。</p> <p>また、体験ができる Let's try のマスをすぐろくの中に入れていたので、体験をして盛り上がっている班の声を聞くと、体験をしていない他の班の子たちが、すぐろくに集中できなくなってしまうという反省があった。マスの中に Let's try! を入れないで、買い物を行うマスだけにして外国語活動として英語で注文し合い、ランチメニューを完成させることだけに集中させる。終わったグループから体験活動ができるようにするとよい。</p>
3. 成果が出た点	<p>マレーシアに対する文化理解としては、子ども達の記憶にととてもよく残るものになった。食べ物や果物、生活様式など、子ども達はどの話にもとても興味を示した。日本と同じところや違うところ、同じ中にも違いがあることを伝えると、さらに深く知りたいと求めてきた。また、セパタクローや楽器、制服を着る体験をすることで、よりリアルに現地の文化に触れることができ、もっとやってみたい、マレーシアに行ってみたいという気持ちが湧いていた。</p>
4. 備考（授業者による自由記述）	<p>今回、担任をもっていない状況での授業実践だったので、5年生の担任に相談し外国語活動の一単元を使って授業をさせていただいた。まずは「どの教科で授業を行うか」からの悩みだったが、関連付けやすい「総合的な学習の時間」はカリキュラムになかったり、社会の単元と考えると6年生で卒業間近の2・3月は頼みづらかったりということもあり、担任外で行う苦しさもあった。外国語活動の一つとして行ったので、SDGs をうまく取り入れられなかったり、国際理解の観点から考えると日本との相違点や少しの体験活動でしかマレーシアを伝えられなかったりしたので、力不足を感じた。</p> <p>しかし、わずか4時間の中に凝縮した学びの中でも、子ども達の心が動いたのは確実に、同時に、また違う機会に今回伝えられなかったことを伝える授業をしたいと感じた。</p>

添付資料：

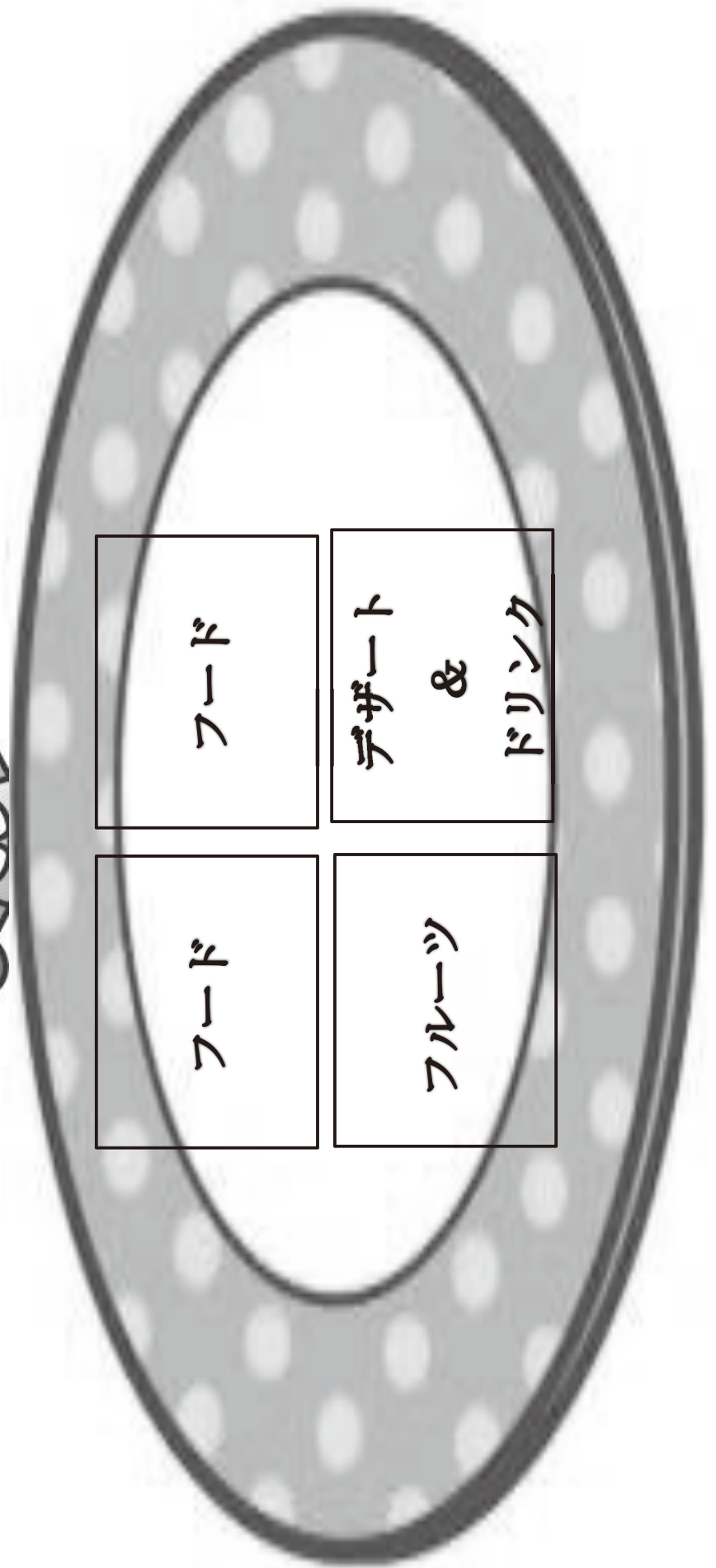
※使用した教材を基本的にすべて添付下さい。

参考資料：

※単元を構想、実施する上での教師のための参考資料、学習者のための参考資料、ウェブサイト、データリソースなどを紹介して下さい。

ランチメニューを作ろう (・◇・) /

名前

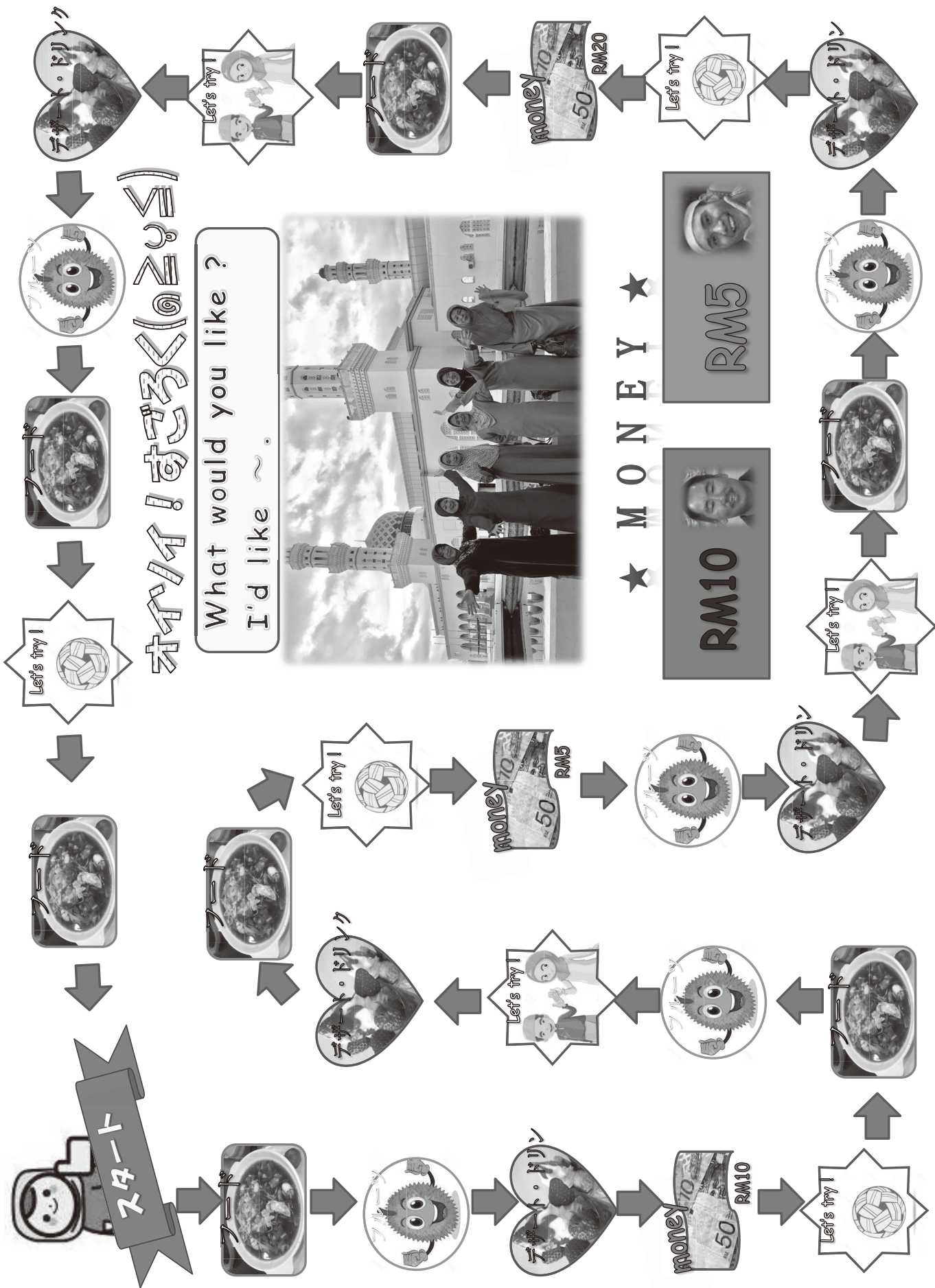


フード

フード

フルーツ

デザート
&
ドリンク



★“オイソイすごろく”の説明★

- ①出た目の数を進むとき、みんなで“one, two, three・・・”と数える。
- ②money のマスに止まったら、その金額だけもらえる。(money 係が渡す)
- ③food, fruit, dessert&drink のマスに止まったら、

みんなで“What would you like ?” と尋ねる。その後、自分のほしいものを注文する。“I d like OO.”

※お金の単位 RM→リンギット

例:A:5RM(ファイブ リンギット プリーズ)

B:(5RM 出して)“Here you are.”(ヒアー ユーアー)

A:“Thank you !” (センキュー)

もらったお金は
すごろくの上のお金
カードの上に置く。

※同じところに止まっても何回でも買います。

お皿の開いているところに貼ります。

- ④ワークシートの4つの枠, food 2種類, fruit 1種類、dessert&drink 1種類をためる。

グループ全員が枠を埋めたら「オイソイ!」と叫んで先生を呼ぶ。

体験コーナーへ行き、Let' s try や 追加の体験コーナーの体験をする。

<追加体験>

- ・ドリアンキャンディ→食べる
- ・ナシゴレン→食べる
- ・なまこ石饅→においを嗅ぐ
- ・太鼓→たたく